



グループホームの正月旅行（令和4年12月31日～令和5年1月3日）

吉田 由紀子



今年もお正月に帰る家がない人たちと、旅行をしました。今年は、去年よりは少し遠い三浦半島にしましたが、いざ発熱者が出た場合でも、すぐに迎えに来られる場所ということで決めました。利用者25名、引率5名の計30名で、バス1台を借り上げて移動しました。

1日目は、羽田空港に寄り、飛行機の発着を見学した後、横浜の中華街で、円卓を囲んで中華料理を頂きました。次から次と出てくる料理にみんな大喜び！午後は温泉に入り、海を見ながら露天風呂に入りました。夜は紅白歌合戦を見ながら、恒例の足の爪切りをしました。毎年やっているのでも、自分でもきれいに切れる人が少しずつ増えてきています。

2日目は、初日の出を見に、6時半に起きて浜辺へ行きました。房総半島から昇ってくる初日の出を拝むことができました。その後、城ヶ崎公園へ出かけ海や灯台、富士山をたっぷり見ました。長年の波の力で岩が変形してビックリの景色でした。この日も午後は油壺温泉へ。

3日目は、小網代の森へ行きました。森を抜けた所に、白髭神社があり、そこにカンカン石がありました。石なのに、鉄を叩いた様にカンカンと鳴る石です。サヌカイトという、旧石器時代に道具の材料となった石だそうです。

4日目は、新江ノ島水族館に寄り、ペンギンやイルカショーを見ました。



帰ってきた翌日から、コロナ感染者が出始め、30人中14名がコロナにかかり、旅行に行った人たちは濃厚接触者として、お正月明け、仕事に出られませんでした。やっと1月中旬から平常の生活に戻ることができましたが、次の年の旅行のあり方について検討していかなければと考えさせられました。また、みんなと楽しい体験を共にした思い出が、今後の生きる活力になっていくことも改めて感じました。



各部だより

安全衛生委員会

交通安全講習を受けました

コロナ禍以前は毎年実施していた、警察による就労支援部利用者への交通安全講習を、今年度久しぶりに開催しました。

就労支援部の利用者は、徒歩や公共交通機関を利用して、独力で通所しています。自転車に乗る方もいて、交通ルールを守ることはご自身のためにも、地域生活を送る上でも、とても大切なことです。支援員も日頃、交通ルールを守るよう話をしていますが、制服を着た警察官から直接話を聞くのは、利用者にとっては特別な時間のようです。いただいた資料を読んだり、分からないことを質問したり、有意義に過ごしました。警察の方もDVDを用意いただくなど、利用者に伝わりやすく工夫していただきました。

ルールは繰り返し学ぶことが大切なので、継続して実施していきたいと考えています。

